

セポ ・ レポ ・ ハイスクール Cepo Repo ・ HighSchool

第11号 (2021年7月 発信)

地域連携教育推進室員が県立高校等に赴き、各学校の地域連携教育の取組をレポートします。このレポートのタイトルである「セポ・レポ・ハイスクール」の「セポ」は「地域連携教育推進室」を表す「Community Education Promotion Office」の、「レポ」は「Report」の略称です。

県立美祢青嶺高等学校の取組



大学教授から課題探究の講義



タブレットを用いたグループワーク



生徒のプレゼンテーションへのアドバイス

県立美祢青嶺高等学校は、平成28年度に県内の県立高校で初めてコミュニティ・スクールとなりました。令和元年度からは、文部科学省事業である「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の地域協働推進校（アソシエイト）として地域と連携・協働した教育活動を推進しています。

注目！

6月16日（水）に普通科2年生が取り組んでいる総合的な探究の時間「美祢市探究プロジェクト」において、山口大学国際総合科学部教授の小川仁志先生をお招きし、講義「課題探究とは何か」と、美祢市の課題発見に向けたグループワークが行われました。

「美祢市探究プロジェクト」は、総合的な探究の時間を利用して、生徒が学校生活を送る美祢市の現状を学び関係機関と連携を図りながら、高校生の視点から課題発見に向けて働きかける活動です。この取組を通して、課題対応能力、自己理解・自己管理能力、キャリアプランニング能力などの資質・能力を育成することをねらいとしています。

注目！

ポイント！

4月には、「美祢市探究プロジェクト」関係者会議を開催し、小川先生をはじめ、美祢市首長部局、美祢市教育委員会、学校関係者が昨年度の振り返りと今年度の進め方等について共通理解を図りました。今年度は、小川先生には7回の指導助言をいただき、9月にはフィールドワークを行います。その後、学校運営協議会や美祢市内中学2年生を対象としたキャリア学習会で中間発表を行うことも予定されています。

ポイント！

現在、新しい学習指導要領の「総合的な探究の時間」に示された「各学校において定める目標及び内容については、地域や社会との関わりを重視すること」という内容を受け、

県内の多くの学校で地域と連携・協働した「総合的な探究の時間」の取組が広がっています。外部と連携した上で、探究の質を上げていくためには、美祢青嶺高校のように関係者会議を開催したり、学校運営協議会を利用したりするなどして事前に関係者がビジョンを共有していくことが重要なポイントです。

ポイント！

当日、生徒たちは、事前に分かれたグループで、「Google Jamboard」を活用してアイデアを整理し、実際に美祢市の課題発見に取り組みました。最後に、グループごとにプレゼンテーションを行い、小川先生から講評をいただきました。

授業後、生徒は、「大人でも解決が難しいことに自分たちがチャレンジしていくことは大変なことだと思いましたが、今日の学習活動で、地元的美祢市をどうしていくべきか、私たちがやるべきことについてイメージすることができました。」と振り返っていました。

注目！

普通科の高校生が社会・地域で探究する意義

ぜひ！お読みください！！

授業後に小川先生にインタビューした内容について一部を掲載します。



生徒たちにアドバイスされる小川先生

Q. 高校で課題解決型学習をする意義はどういったことか。

A. 自分たちが社会を担っているのだという自覚をもつために、世の中にどんな問題があり、それに対して自分たちがどう関わっていけるか意識をもつことが、18歳で有権者となる生徒たちには必要だと思っている。また、こうした取組は小学校・中学校という早い段階から取り組むべきだとも考えている。

Q. 実際にフィールドワークをする意味はどういったことか。

A. 文章で書いてあることからだけでは、探究する対象の実態がどうなっているかは分からない。現場において、目で見て体で体験するということは、文字情報から得た情報とのギャップを埋めるという意味があると思う。

Q. 高校という自己確立期において、社会を意識するという事は難しいのではないか。

A. 生徒が自分自身を知るためにも、こういった探究の授業が必要だと考えている。実社会を知るということを教科だけで学ぶことは難しい。探究を通じて社会を知ること、その社会の中で自分は何ができるのかについて考えることにつながっていく。

Q. 課題解決型の学習が学力とどう結び付くと考えているか。

A. 大学入学者選抜で求められる学力の質が変わってきていることも確かだが、課題解決型の学習をしてきた者と、してこなかった者とでは、何よりも大学入学後の学修や研究において差が出てきていると感じている。それは、現実の問題に対峙し、人と話すことが、思考力を伸ばしていくからではないか。

Q. 都市部に対して地方である山口県で学ぶメリットはどういったところにあるとお考えか。

A. 日本の問題の多くは、地方で起こっている。解決すべき課題が身の回りに多く存在するということは、高校生の学びにとってアドバンテージだともいえる。また、都市部に比べて地方の方が、若者の学習に対するバックアップ体制が素晴らしいとも感じている。

県立美祢青嶺高等学校の情報はこちらから→ <http://www.mineseiryu-h.ysn21.jp/>

